【別紙様式３】

再評価実施事業調書

番号	２	事業名	国道道路改築	路線又は箇所名等	一般国道126号 山武東総道路二期
事業所管課	道路整備課			事業主体	千葉県

事業化年度	Ｈ１６	用地着手年度	Ｈ１９	工事着手年度 工事終了(認可)年度	未定 Ｈ３０	再評価の理由	②

費用便益比 Ｂ／Ｃ	１．８	総費用	39億円	総便益	70億円	基準年	Ｈ２３	供用開始 年度	Ｈ３１

【事業概要】

千葉県の東部に位置する山武・東総地域は、従来から農林水産業や観光産業を中心に発展してきた基盤があり、さらに、今後は首都圏における地理的条件を活かした活力ある産業構造を創造し、地域がより魅力的に発展することが期待されている。

地域高規格道路「銚子連絡道路」は、銚子市と山武市とを連結し、山武・東総地域の道路ネットワークの骨格となり、首都圏中央連絡自動車道等の高規格幹線道路と一体となって機能し、地域間相互の連携・交流の促進、一般国道１２６号の交通混雑の緩和、物流の効率化、交通安全の強化、周辺環境の改善など当該地域の活性化や県民生活の利便性向上に資する社会基盤である。

一般国道１２６号山武東総道路二期は、銚子連絡道路の一部を構成する横芝光町芝崎から匝瑳市横須賀に至る延長約５．０ｋｍの区間であり、当該地域における交通混雑の緩和と沿道環境の改善を図るため整備を進めている２車線のバイパス事業である。

【事業の進捗状況】

	全　体	投 資 済 （平成23年度まで）	残
延長（km）	５．０	—	—
事業費（億円）	44．１	６．１（14%）	38．０
うち用地補償費	９．６	１．９（20%）	７．７
うち工事費	34．５	４．２（12%）	30．３

【社会経済情勢等】

・地域高規格道路「銚子連絡道路」は、山武・東総地域の発展に寄与する道路として、地元市町や県議会などにおいても早期整備の要望が高い。

・山武東総道路の一期区間となる千葉東金道路の松尾横芝ＩＣから横芝光町間約６．１ｋｍについては、平成１８年３月に供用済である。

・銚子連絡道路は全体延長が約３０ｋｍと長く、事業の長期化が懸念される事から、道路の構造規格や交差点形状等の見直しによりコスト縮減等を図ったところであり、今後も引き続き早期に事業効果を発現させるため、コスト縮減等に努める。

【対応方針】

銚子連絡道路は、首都圏中央連絡道路などの高規格幹線道路と一体となって山武・東総地域の道路ネットワークを形成する地域高規格道路であり、「交通環境の改善」や「物流の効率化」など当該地域の活性化や県民生活の利便性向上に資する重要な道路である。

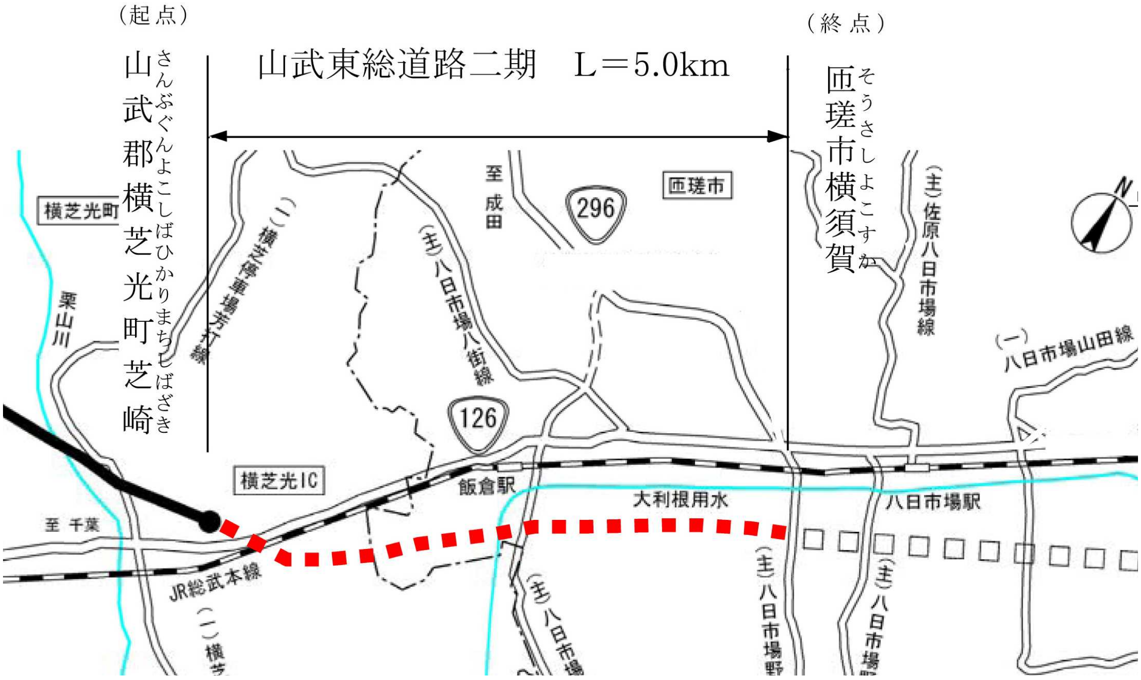
また、当該地域は、東日本大震災により甚大な津波被害を受けた事から、本道路が当該地域の復興支援に寄与するとともに「緊急輸送道路の強化」が図れることから、事業継続する。

【別紙様式4】

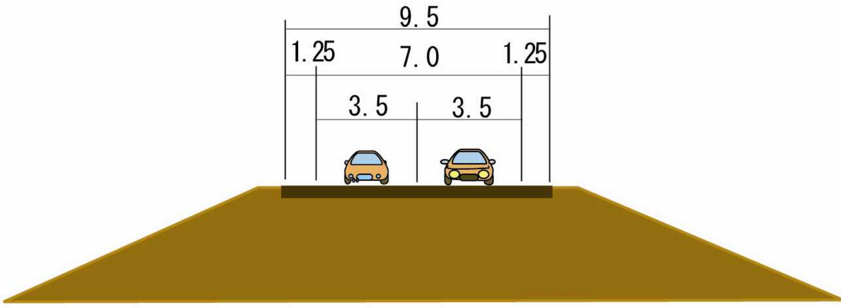
事業概要図

番号	2	事業名	国道道路改築	路線又は箇所名等	一般国道 126 号 山武東総道路ニ期

（平面概要）



（標準横断図）



道路幅員の決定理由

（単位：m）

	採用値
車道部	3.50
中央帯	なし
路肩	1.25
歩道部	なし

・道路構造令
　道路の区分：第3種第2級
・本道路は、主要幹線に該当する第3種2級の道路であることから車道幅員は3.5mとした。